

## 輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部  
購買推進課

## 中東・中国需要動向

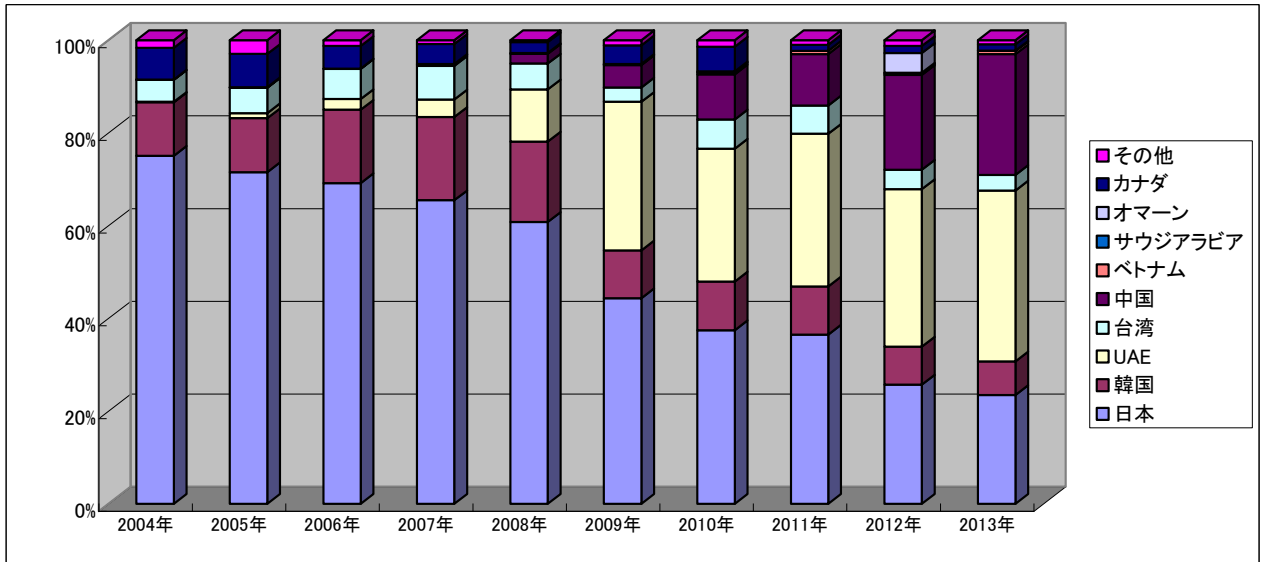
これまでもご案内の通り、09-10年からUAE（アラブ首長国連邦）向けと中国向けの米国産アルファルファが驚異的に数量を伸ばして輸出され始めました。13年産の米国産アルファルファについても、両国の安定した船積みは続いています。

産地でのアルファルファを中心とした乾牧草市場は、日本側が想像している以上に大きく、劇的に変化しています。一昨年11年は、かろうじて日本が米国産アルファルファの輸出数量トップをキープしましたが、昨年12年はUAEに抜かれ、今年13年1-6月は中国に抜かれ、現在は第3位となっています。また、これまではプレグレード品中心の日本向けに対して、UAEや中国向けはスタンダード品以下が中心の引合いだったため、上手く棲み分けがされてきましたが、急速な経済の発展と資金力を背景に、いずれはUAEや中国向けもプレグレード品も求めるようになり、日本向けと競合することも産地では予想されています。今後も動向には注意が必要です。

米国産アルファルファ年間輸出数量（MT）米国農務省海外農務局資料より 2013年は1-6月

	2004年	シェア%	2005年	シェア%	2006年	シェア%	2007年	シェア%	2008年	シェア%
日本	706,809	75.0	614,367	71.5	559,523	69.2	490,106	65.5	558,538	60.8
韓国	108,751	11.5	100,161	11.7	127,832	15.8	134,489	18.0	159,235	17.3
UAE	988	0.1	9,299	1.1	18,621	2.3	27,946	3.7	103,419	11.3
台湾	44,830	4.8	47,308	5.5	52,633	6.5	54,227	7.2	51,248	5.6
中国	127	0.0	251	0.0	420	0.1	2,321	0.3	19,348	2.1
ベトナム	64	0.0	452	0.1	135	0.0	1,117	0.1	1,248	0.1
サウジアラビア									130	
オマーン										
カナダ	64,802	6.9	61,745	7.2	39,265	4.9	32,183	4.3	21,575	2.3
その他	15,436	1.6	25,637	3.0	10,338	1.3	6,116	0.8	4,142	0.5
合計	941,807		859,220		808,767		748,505		918,883	

	2009年	シェア%	2010年	シェア%	2011年	シェア%	2012年	シェア%	2013年	シェア%
日本	686,148	44.4	540,365	37.4	585,186	36.5	452,056	25.7	225,469	23.5
韓国	159,460	10.3	151,613	10.5	166,125	10.4	144,352	8.2	69,567	7.2
UAE	495,432	32.0	412,901	28.6	527,456	32.9	596,715	33.9	353,634	36.8
台湾	47,918	3.1	91,472	6.3	97,904	6.1	74,265	4.2	32,539	3.4
中国	74,985	4.8	140,362	9.7	177,374	11.1	359,145	20.4	249,670	26.0
ベトナム	1,817	0.1	5,738	0.4	10,982	0.7	6,162	0.4	6,857	0.7
サウジアラビア	1,329	0.1	3,324	0.2	111	0.0	2,430	0.1	530	0.1
オマーン							74,513	4.2		
カナダ	61,978	4.0	76,664	5.3	21,165	1.3	26,488	1.5	12,990	1.4
その他	17,820	1.2	20,596	1.4	16,098	1.0	22,519	1.3	8,902	0.9
合計	1,546,887		1,443,035		1,602,401		1,758,645		960,158	



## 北米コンテナ船情勢

10-12月分のBAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）について、10月から\$5の値上げ実施が発表されています。多くの船会社から9月1日付けでGR I（General Rate Increase：基礎レート）\$100値上げ実施の発表がされていましたが、その大半が10月1日付けに実施が延期されている模様です。

PSW（Pacific South West area：太平洋側南西部地区）のロサンゼルス/ロングビーチ港では、引続き船腹スペースに余剰感もあるようです。オークランド港では一時的に実施されたストライキも既に解除されていますが、まだ混乱が落ち着いていないために、船積み遅延が発生しています。また、輸入量が輸出量に追いついていないPNW（Pacific North West area：太平洋側北西部地区）のシアトル/タコマ港やポートランド港では、引続き空コンテナが不足している模様です。

## ビートパルプ

<米国産>

12年産ビートパルプについては、米国内酪農家のみならず、欧州からも引合いが強かったため、ほぼ売切れ（成約済み）となっている模様です。

春先の冷涼な気候により、13年産ビート大根の作付けは進捗が遅れてスタートしていましたが、その後の生育は順調で、少しずつ遅れは回復してきていると伝えられています。砂糖の相場価格が低調に推移していることと、作付けの遅れにより単収が減少すると予想されていることから、13年産ビート大根の作付面積および13年産ビートパルプの生産量は、12年産よりも減少することと、過去5年の平均よりも少なくなることが予想されています。

### <中国産ほか>

中国産の13年産ビート大根の作付面積は、12年産よりも減少している模様です。国内市場の拡大が進み、国内向けの需要もさらに増えることが予想されているため、韓国と日本向けへのビートパルプの輸出数量は、今後も限定的となる見込みです。

世界的に砂糖の相場価格が低調に推移していることから、欧州産の13年産ビート大根の作付面積についても、国により違いはあるものの、前年対比で大幅に減少することが予想されています。

## **アルファルファ**

### <ワシントン産>

13年産の1番刈は、残念ながら今年も雨当たり被害が多く発生し、南部では90%が雨当たり品となりました。2番刈は生育中に非常に暑くて乾燥した気候が続いたため、分析値はあまり良くないスタックが多く発生している模様です。

産地コロンビアベースンでは、3番刈の収穫が7月下旬から開始されていますが、8月上旬に降雨がありました。そのため、雨当たり品や色あせ（ブリーチ）が目立つスタックが多く発生している模様です。

### <オレゴン産>

クリスマスバレーでは、6月下旬にまとまった降雨があり、13年産の1番刈の収穫は一時中断されました。その後も不安定な気候が続き、全体で40%程度の雨当たり被害が発生しています。春先に冷涼な気候が続いたため、見た目は茶葉や茶色い茎が散見されるスタックが多い模様です。また、2番刈の収穫が7月中旬から開始されていますが、8月上旬に降雨があり、80%程度の雨当たり被害が発生している模様です。降雨の影響で収穫のスケジュールが遅れているため、3番刈の生産量は少なくなることも予想されています。

クラマスフォールズでは、6月中旬に降雨があり、13年産の1番刈は10-20%程度の雨当たり被害が発生しています。クリスマスバレーと同様に、春先に冷涼な気候が続いたため、見た目は茶葉や茶色い茎が散見されるスタックが多い模様です。2番刈の収穫については、7月上旬から開始されて、既に終了しています。収穫中に一部で降雨はありましたが、大きな被害は出ていない模様です。

### <ネバタ産>

13年産の1番刈は、全体で20-30%程度の雨当たり被害が発生しています。春先に気温が低下した日が続いたため、単収が例年よりも少なくなっている模様です。

2番刈の収穫が7月上旬から開始されていますが、生育中に非常に暑くて乾燥した気候が続いたため、分析値はあまり良くないスタックが多く発生している模様です。

#### <カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは、6番刈の収穫が進んでいます。品質が落ちてきているため、牧草向けよりも種取り用の圃場も多くなってきている模様です。そのため、国内向けや、UAEや中国などの輸出向けのアルファルファの需要は、カリフォルニア中央から北部へ、あるいは他の州へと徐々に広がり始めているとも伝えられています。

#### <ユタ産>

13年産の1番刈は、収穫時期に目立った降雨もなく、雨当たり被害はほとんど発生していません。2番刈は7月上旬から収穫が開始されましたが、概ね50%程度の雨当たり被害が発生している模様です。産地では現在3番刈の収穫が進んでいます。

UAEや中国向けの需要が増えてきたためか、ユタ州ではサプライヤー間での買付競争が激しくなっている模様です。そのため、産地価格は堅調に推移しています。

### **チモシー**

#### <米国産>

主産地のコロンビアベースンとエレンズバーグでは、収穫時期の6月中下旬に断続的な降雨があり、全体で80%程度の深刻な雨当たり被害が発生しています。“近年まれにみる厳しい作柄”となった昨年の12年産を上回るほどの“史上最悪な厳しい作柄”であると、産地では言われています。馬向けも酪農向けもハイグレード品の発生量はかなり限定的で、確保は極めて困難な状況となっています。そのような状況下であるがゆえに、例年の中間グレード品が今年のプレグレード品に、例年のローグレード品が今年の中間グレード品に、というように、13年産ではグレーディングがずれてきているとも伝えられています。また、産地では8月上旬に降雨があったため、収穫中の2番刈でも一部で雨当たり被害が発生している模様です。

当初は今年こそ軟化することが予想されていた産地価格も、一転して堅調に推移し、中間以上のグレードは“史上最高値”で推移しているのが現状です。為替円安の状況下で、特に酪農向けには費用対効果のある価格帯でいられるのかどうか、産地では疑問視もされています。他草種への移行も、視野に入れる必要があると思われます。

#### <カナダ産>

レスブリッジ（南アルバータ）では、1番刈の収穫が終了しています。何度も雨に当たった圃場も多い模様で、ハイグレード品の発生は限定的となっています。ドライ

ランド（中央アルバータ）では、1 番刈の収穫が7月中旬から始まり、現在終盤戦を迎えています。ここでも雨当たり被害が発生しているため、ハイグレード品の発生は限定的となっています。

米国産の状況を受けて期待されていたカナダ産も、残念ながら作柄は悪い結果となっています。米国（ワシントン州）のサプライヤーも、自社でのハイグレード品の不足分を補うために、積極的に買付けに来ているとも伝えられています。そのため、米国産と同様に、産地価格は手の届かないところまで高騰しています。為替円安の状況下で、特に酪農向けには費用対効果のある価格帯でいられるのかどうか、産地では疑問視もされています。米国産と同様に、他草種への移行も、視野に入れる必要があると思われる。



ドライランド（中央アルバータ） チモシー圃場 左：8/16撮影 右：8/20撮影

## スーダングラス

<インペリアルバレー産>

13年産の早播きの1 番刈は終了しています。収穫前に暑い気候が続いたため、一般的に茎サイズバラつきがあり、予想以上に茎細品の発生が少なくなっています。産地では現在、早播きの2 番刈や、小麦収穫後に播種する遅播き（アフターウィート）のスーダングラスの収穫が終盤戦を迎えています。例年よりも少し早く、7月中旬から湿度が高くなり始めたため、茶葉混じりのスタックが多く発生しています。茎細のプレミアム品の発生が少ないことや、きれいなスタックの発生が少ないことから、またチモシーの情勢を受けて徐々に引合いが強くなっていることから、当初は軟化すると予想されていたスーダングラスの産地価格も、徐々に強含みに転じている模様です。

産地インペリアルバレーでは、8月下旬に豪雨が発生しました。一部のサプライヤーでは、出荷作業を一時中断していました。13年産のスーダングラスの収穫は9割が終了しており、買付けのピークも過ぎています。また収穫中だった圃場のスタックは集荷が困難となるため、茎太のローグレード品の発生量は、予想よりも減少する可能性もあります。今後の動向には注意が必要です。





エルセントロ 降雨被害状況 8/30撮影

### **クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）**

インペリアルバレーでのクレーングラスの作付面積は、8/15時点でのエーカーレヅジレポートによると、前年対比118%の16,656エーカーとなっています。産地では13年産の4番刈の収穫がほぼ終了しており、早い圃場では5番刈が始まっています。8月下旬の豪雨により、一部の圃場では雨当たり被害も発生している模様ですが、生育中で収穫をまだ開始していない5番刈には、あまり影響が出ていないと伝えられています。

13年産クレーングラスの産地価格は、スタート当初から韓国向けの引合いが弱めに推移していたことも受けて、12年産よりも少し軟化して推移しています。禾本科牧草の中では相対的に割安感もあるため、作柄が最悪なチモシーから切替えて使用することも有益であると思われます。

### **バミューダ**

インペリアルバレーでの8月下旬の豪雨で一番被害を受けている草種は、バミューダハイであると、産地では言われています。種取り後のハイの収穫が進んでいましたが、多くの圃場で雨当たり被害が発生している模様です。バミューダハイの良品は限定的となることが見込まれているため、高値で推移していた産地価格は、今後さらに高騰することが懸念されています。

### **ストロー類（フェスキュー・ライグラス）**

13年産の米国産ストロー類について、トールフェスクは7月上旬から、ライグラス（ペレニアル種）は7月中旬から収穫が開始されました。どちらも雨当たり被害はほとんど発生していないようですが、特にトールフェスクは韓国向けの引合いが堅調なことから、産地価格は軟化せずに推移している模様です。

## 豪州産オーツハイ

西豪州、南豪州、東豪州（ヴィクトリア州）の全ての輸出向け産地で、12年産オーツハイは収穫時期の天候が良好だったため、ハイグレード品がほとんどで、中間からローグレード品は極端に少なく、非常に珍しい作柄の年となりました。

通貨の豪州ドルについて、依然高値ではありますが、一時期に比べると米国ドル対比で“豪州ドル安”で推移しています。豪州のサプライヤーも、オーツハイの価格（米国ドル建て）の値下げが実現可能となってきたため、為替円安の状況下にもかかわらず、日本側の輸入価格も弱含みに推移し始めています。13年産が始まるまでの短い期間かもしれませんが、作柄が最悪なチモシーから、豪州産オーツハイに切替えて使用することも有益であると思われます。

13年産のオーツハイについて、産地では生育が進んでいます。西豪州では6月は降雨が少なかったため、少し早魃傾向であると伝えられていましたが、7月中旬にまとまった降雨があり、生育も回復してきている模様です。東豪州（ヴィクトリア州）でも5月までは乾燥した状態が続いていましたが、その後は適度な降雨があり、生育は順調に進んでいると伝えられています。また、南豪州では5月から7月まで例年並み、もしくはそれ以上の降雨があったため、生育は順調に進んでいる模様です。

以 上